

県P連だより

No.27

第38回 広島県PTA研究大会あきたかた大会

—— みんながつくった安芸高田大会 ——

実行委員長 神田 正 広

●大会が終わってほっとしました

十月十九日、七五〇名の参加をいただいた第三十八回広島県PTA研究大会あきたかた大会を、皆様のおかげによって無事に終えることができました。

大会が終わってしばらくは、安堵感の風呂につかっているような気分でした。

●手探りの実行委員会

過去に、安芸高田市（高田郡）で県P研究大会が開催されたことはありません。大会前年の六月、大会がどのようなものかわからないまま準備委員会が組織されました。翌年三月には実行委員会を立ち上げたものの、準備は手探りの状況でした。

大会が近づくにつれ、新たな不安が発生し、プレッシャーも増していきました。

しかし、大会の前日、最終準備とリハーサルに動き回る委員を見ると、心配するのは当日の天気だけに思えてきました。もう、私がやることはほとんどありませんでした。それぞれの係がどんどん前へ前へと進んでいました。

●健気な大土山田楽

大会は小田小学校の大土山田楽で始まりまし

た。小田小学校の子どもたちは、この季節には安芸高田市内のあちこちで大土山田楽を演じています。ほかにもハンドボールの試合などもあるので大忙しです。今回も全員が揃うことは叶わなかったようですが、そんなことを感じさせないすばらしい演技を今年最後の大舞台で披露してくれました。六年生の子どもたちは、小学校最後の演技でした。健気に舞う彼らに、勇気づけられる思いでした。

●実践発表も苦労されたはず

府中市立上下中学校、東広島市立大田小学校、三次市立志和地小学校の三校に実践発表をしていただきました。いずれの発表も、PTA、学校、地域の連携の大切さを感じさせるものでした。

それぞれの取り組みに感じました。

この発表に向け、各校とも原稿作りにご苦労をされたものと思います。発表の内容、時間ともうまくまとめたいていただけており、大会運営の面からも安心できました。

●昼食が心配で・・・

会場のホールでは飲食ができません。昼食場所をどうするかが準備の中でも大きな課題でした。しかし、参加者のご協力のおかげもあって、トラブル無く昼食をとっていただくことができました。さらに分別回収にもご協力いただきありがとうございました。

●引き継がれる神楽の遺伝子

前日のリハーサル前には中学校の駅伝がありましたが、美土里中学校の生徒たちは、レース直後に駆けつけて舞ってくれました。

本番で彼らが舞う「滝夜叉姫」は、まさに大人顔負けでした。演技後に倒れこむ生徒がいるほどの熱演でした。きつと多くの人を魅了してくれたものと思います。

大人から子どもへの心へ引き継がれた神楽の遺伝子を、目の当たりにした気がします。

●ふくやま大会PR

福山の皆さんによる次期開催地PRは、演出・衣装・小道具に趣向を凝らした、実にユニークなものでした。

一年前のあきたかた大会PRを思い出しました。あの頃から団結力が増していったと思います。

●他人の子も叱って

講師の八名信夫（やな のぶお）さんは、「悪役商會」所属の名俳優です。当日お会いするまでは、どんなに敵う人なのだろうかと緊張感がありました。実物の八名（やな）さんは気さくに写真撮影やサインをしてくださる大らかな方でした。

「他人の子を叱るのも大人の思いやり」と題した講演では、「自由の中にも責任があることを自覚させなければならぬ。」



挨拶をする高橋一昭会長

「元に戻れない脇道があることを教えるのは大人たちの責任である。」「他人の子どもにもっと関心を持ち、もっと他人の子どもを叱ってほしい。そして子ども達を守ってほしい。」という話を、俳優経験のエピソードを交えながら語っていただきました。「好かしようと思ってる生きた」「何かをしようとする者を何もしない奴らが笑うんだ」という明治大学野球部元監督の島岡吉郎氏の言葉も聞いていただきました。

●サンフレのよこな・・・

安芸高田市と山県郡から集まった実行委員二百十三名は、労を惜しまず計画的かつ臨機応変に動いてくれました。サンフレのサッカーのように、互いに連携し速いパスを繋ぎながらゴールを目指して進んでいく。そんな姿に、人の力のすごさを感じました。

このメンバーでなければ成し遂げられなかった気がします。この人たちと大会をできて幸運だったと思います。

●すべての人に感謝

参加者、来賓、講師、出演者、司会者、要約筆記通訳、照明、音響、実行委員・・・まさに大会にかかわるすべての人のおかげがなければ、このような大会はできなかっただろうと思っています。すべての人に感謝の気持ちでいっぱい

です。ありがとうございました。

平成二十年度 全小・中学校PTA母親代表研修会

母親代表 西山 美智子

平成二十年十二月六日、三原市本郷町の本郷学習センターにて広島県PTA連合会主催「平成二十年度全小・中学校PTA母親代表研修会」を開催致しました。

研修会当日は早朝より、小雪が舞う肌寒い日ではありましたが、早朝より三百八十名近い参加を頂きました。

「今、教室で行われている道徳の授業を学ぶ」と題して、初めての試みで模擬授業を行いました。先生は広島県教育委員会指導第三課道徳教育係指導主事 吉田先生と蓮浦先生を迎え、生徒役には役員・理事・母親代表の皆さんが中学校二年生の立場で授業が繰り広げられ、会場の参加者も時折、発言する場面もあり、まさに参加型の授業となりました。講演会では講師に関西学院大学教授 横山利弘先生に「道徳教育とは何だろうか」子どもを育てるために」と題してご講演を頂きました。

ユーモアたっぷりのお話にあつという間の九十分。沢山のヒントと元気を頂き、会場中に笑顔の花が咲きました。子育て真っ最中の自分自身に置き換えて感じ取れる身近なお話ばかりで、先生の一言一言に共感・実感・反省させられた、そんな気が致します。

とかく、母親は子どもの事全てを知りたがり、子どもの心もある程

度は見える“それ以上も見たい気持ち強いが、見えない部分は信じる事が大切。母親は子どもにとって安心・安全な場所であればならないと言われました。

子どもが親を必要としている時期・見守る時期を見極めて子育て出来るという良いですね。

午後からは本郷小学校に於いて、十一教室に分かれ分科会を行いました。「あなたは何を感じ取りましたか」をテーマにそれぞれの思いや考えを伝え合うグループディスカッションになったと思います。会場によつてはかなりヒートアップしてみたいですが。

今回の研修会を通して、今一度自分自身を振り返るきっかけになりましたか？子育ての参考になったでしょうか？

参加者の皆様、スタッフの皆様、今回、分科会会場を快く貸してくだ

さいました本郷小学校の先生方、全てに感謝申し上げます。本当にありがとうございます。ございました。



ユーモアたっぷりの講演をされる横山利弘先生

模擬授業を体験して

理事 岩崎 雅吉

30数年前に戻り中2の自分が模擬授業の席に座っています。そこは満員電車の中、新聞を広げたサラリーマン、大きな荷物を抱えたおばあさんが、目の前に立つて居ます。同じく立っていた耕作さんが大きく広げ新聞を読んでいるサラリーマンの方の姿に常識と言う良心に火がつき、勇気を持って声掛けをした第1場面に私はいます。まず勇気を持って声掛けをした耕作さんの行動に対して、ありがとうございます。いいです。そして、座って何も出来なく座っていた自分、なぜ立上って、耕作さんありがとうございます、そして、おばあさん、ここへどうぞ、が言えず座って見ていた自分に、黙って席を譲る、第2場面のバスの紹介に、ハッと、気づかれました。

「道徳」の授業をうける中学生になりきって（気分は15才ーなんだかウキウキ）精一杯がんばりました。電車でのありがちな出来事をふまえて「社会の常識」「人としてのモラル」「親切心とは？」などなど考えたり、いろんな方の発言を聞いていくうちに、さて私はいったい何がしたいのか、何が言いたいのか混乱してしまいました。自分の思いを相手に押しつけることなく、伝えて、受け入れてもらえる言い方を日常的に心掛けなくては、いざという時に態度に表せない後悔してしまうんですね。

「道徳」を辞書でひくと、人として守らなければならない行ないや事がら」とあります。普通、人はこう思うだろうとか、こう動くだろうとか、きつこうあるべき、と思うのは今まで自分が経験したことからの想像がきます。そしてその通りに行動できればいいのですが、なかなか思うようにはできません。自分がしてほしいと思うことを人にもしてあげられる心のゆとりとやさしさを身につけていきたいと思いました。

後日、電車にて、高齢の方に席をゆずることができました。（自画自賛）相手の方は、とても申し訳なさそうにされて、でもうれしそうでした。降車される際、「本当にありがとうございました」と笑顔でお礼を言われて、私も笑顔になりました。親切にして、お礼を言われたり、感謝されるとなんだか照れくさいけどやっぱりうれしい、気分もおだやかになりますね。

分科会のアンケートから

- 「道徳心」をテーマに幅広いお話、PTA活動にまで広がっているヒントをいただきました。
- いろんな人の意見を聞いているうちに、自分の考えが変化していくことが大変参考になった。子どもたちもそのような学習の中で、いろいろな考え方が身につけていくんだろうなと感じた。
- 中学の授業風景が思い浮かぶような大人になると感じ方が変わったなあと思いました。

日本PTA中国ブロック研究大会 岡山県笠岡大会

日時 平成20年11月8日(土)
場所 岡山県笠岡総合体育館

大会に参加して

副会長 榎 大介



（社）日本PTA全国協議会の「すべての児童生徒が心身ともに健全でたくましく、心豊かに成長することを願う」という基本方針に基づき、中国ブロックのPTA会員2800名が集結し「おかやま教育の日」の週間に「伝えよう命の輝くメッセージ 心豊かな子どもたち」を大会主題として「生きている化石」と呼ばれるカブトガニの生息地として有名な笠岡の地、笠岡大会が華々しく開催されました。開会行事では昨年度まで3年間に亘り、広島県PTA連合会の会長を務められた連石武則前会長への表彰、及び長年に亘って広島県PTA連合会の事務局長を務められた慶徳英邦前事務局長への感謝状の贈呈が中国ブロック研究大会会長の太田豊秋会長より授与されました。このお二人は、来る平成23年に開催される日本PTA全国協議会の全国大会広島大会の誘致に強烈な燃え滾る熱い思いをもって尽力された方であり感慨深いものがありました。

シンポジウムでは「早寝・早起き・朝ごはん」の輪、をテーマとして当たり前のことですがとても重要なお話でした。

た。印象に残っているのが東海大学体育学部教授の小澤治夫氏のお話で以前、高校の教諭をされておられたとき、その高校では3年生（受験生）が200人弱でそのうち70〜80人が東大に入学するという学校だそうです。3年生に生活習慣の統計をとった結果、東大に入学する生徒は、しっかりと朝ごはんをとっているということ、睡眠時間をしっかりとっていること、勉強時間は2時間、という結果だったそうです。食生活や生活習慣の大切さがとても大事であるということをお話するために認識できた有意義なシンポジウムでした。

記念講演は「もっと豊かに生きたい人に・夢と一緒に歩きましょう」という演題で、講師はテレビでもおなじみのデューク更家（さらいえ）氏でした。細胞から活性化させ、歩くだけで楽しくなっていくエネルギーが全身の湧き上がってくる。そんなウォーキング理論を実演をまじえながらのお話で最後までとても楽しくためになるお話でした。

大会を終えて会場を出るバスの中で、雨の中を車を誘導するスタッフの方に「有難う御座いました」と大きく手を振ると、私たちのバスが見えなくなるまで大きく手を振り続けてくださったスタッフの姿がとても印象的でした。多くのことを学ばせて戴いた中国ブロック大会でした。



日本PTA創立六十周年記念式典

日時 平成20年11月20日(木)
場所 ホテルニューオータニ（東京）

表彰の栄を賜り

連石 武則

■文部科学大臣表彰(団体)

安芸郡熊野町立熊野中学校PTA
東広島市立高屋東小学校PTA
福山市立城南中学校PTA

■文部科学大臣表彰(個人)

大下 ちなみ 連石 武則
清原 秀友 池田 淳二

■(社)日本PTA全国協議会 会長表彰(団体)

三原市PTA連合会
三次市立志和地小学校PTA

■(社)日本PTA全国協議会 会長表彰(個人)

連石 武則 竹本 寛美
栗田 三郎 益原 秀文

■(社)日本PTA全国協議会 会長表彰(感謝状)

小田 光範 西 和夫
藤澤 隆 中村 直美
若本 祐昭 江口 和浩
花満 美和 江坂 宗春
猪掛 公詩 水ノ上登紀子
宋戸 宏規 平櫛 勉
瀬尾 明彦 作田 雅志
橋本 佳人



出席した受賞者

昨年の六月六日に県P役員を退任し、小中でのPTA活動を心の中で落ち着いて振り返る。そんな時の流れに身を委ねながら高校PTAを楽しんでいた所、あつという間に年を越してしまいました。光陰矢のごとしの言葉を改めて感じています。

さて、昨年十一月二十日に皇太子殿下。同妃殿下御臨席の下、日P創立六十周年記念式典が開催されました。私は皆さんと関わり続けて来た十六年間のPTA活動において、文部科学大臣表彰、日P会長表彰を多くの仲間と共に頂く栄誉を賜りました。広島県からもPTA OBの先輩方を含め多くの方々が表彰を受けられ、再会に話が弾み。継続する事、思いを共有することの大切さを改めてしっかりと心に刻むことが出来ました。

PTA活動は、子ども達の為に“の一念です。私達の未来を託せるのは私達の子ども達だけです。その子ども達に言葉を尽くし、手を尽くし。心を尽くして地道に、そして着実に歩まれているPTA会員の皆さんが全国に居る。心に安らぎと幸福、身にはエネルギーを頂いた感謝と確信の式典でした。PTA仲間はいいナ!!



日本PTA
ひろしま大会
まで
……
あと
937日

鐘

広島に住み始めて三十年、一番感じるのは市民の平和への関心の深さです。私も自分のできることはないかと二十年前位前からホームステイを受け入れています。(念のため家族は誰も英語が話せませんが)世界中の若者に、自分の目で核の恐ろしさを感じてほしい。この小さな草の根交流がきっと世界平和につながると思っています。今まで我が家に迎えたゲストは約二十五人、今年も念願の長期のホームステイを取行。五月から一月までの約八ヶ月間、フイリピンから来た十七歳の青年で近くの公立高校に通っています。新しく我が家の息子になった彼は日本の文化に興味があるとは、食欲に何でも吸収し、もう今ではほとんど日本語で日常会話ができます。若いつてすばらしい！もちろん受け入れ団体の平和学習もみっちりあり、私も八月六日の平和記念式典、灯籠流しと一緒に経験できました。思いがけない副産物は、子育ての終わった私達熟年夫婦にとって倦怠期になる暇もなく、エキサイティングな毎日です。子育て中は多くの出会いがあり、それは確かに親である私も育てられているという実感がありました。『子育ては親育て』だから子育てはやめられないと久しぶりの高校生の親を楽しんでいます。(葉)

編集後記

県P連活動に参加する機会を頂き大変うれしく思っております。

今年度は私の地元でもある、安芸高田市で県大会が行われました。その大会では、大勢の方々の協力の下無事に終えることが出来ました。

又、役員同士の絆も深まり、同じ地域でも知らない方々と協力し合い一つの行事をやり遂げたという達成感が、生まれました。

これも一重に、会員の方々の多数のご参加があったからだと思います。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

いつでも、どこでも、自分一人では行けません。皆の協力や思いやりがあればこそ、どんな事でも乗り越えることが出来るはずです。

今の子ども達にも、いろいろな経験を通して、解ってもらえればと思います。

最後になりますが、各大会・研修会など、各地域でまだ開催されるので機会があれば出向いて頂ければと思います。必ず良いヒントに、出合える事と思います。

次号も皆様のご協力を宜しくお願い致します。

理事 黒瀬 照 美

第59回 日本PTA全国研究大会
第41回 日本PTA中国ブロック研究大会
ひろしま大会
きんざい!みんざい!やりんざい!子どもたちの笑顔のために
平和な未来へ <ひろしまからの発信>

①家庭・学校・地域の連携を深めるPTA活動
②児童のあふれる家庭を応援するPTA活動
③未来の平和を築くPTA活動
④おとなの連携を高めるPTA活動

「シンボルマーク」募集要項

作品の送付先・お問い合わせ先
広島県PTA連合会事務局シンボルマーク募集係
〒732-0025 広島県東区南2丁目1-14 広島県立生涯学習センター内
☎082-262-1600 (11:00～17:00) ※Eメールでの受付は不可

充実の補償で お子様を サポートします

●誤って他人のものを
壊したり、他人にケガを
させてしまったら…
(加害事故の補償)

インターンシップ(職場体験)や
アルバイトに起因する賠償責任も
対象となります。

●授業中やクラブ活動など、校内外を問わず発生するケガや
病気*の補償

*病気入院補償
はWプランのみ
対象です。



団体割引適用で 割安な保険料!

(注)動産総合保険(携行品一式特約付帯)には、団体割引による割引は適用しません。
スクールメディカルデスク24でお子様の健康相談を24時間受付

●学校管理下中の学用品・身の回り品などの補償
●育英費用等

充実の補償でお子様をサポートします。 広島県PTA連合会 小・中学生総合保障制度



小・中学生総合保障制度はこども総合保険・動産総合保険(携行品一式特約付帯・学校管理下中のみ担保)のペットネームです。この広告は「広島県PTA連合会小・中学生総合保障制度」の概要について紹介したものです。保険の内容は平成20年度のパンフレットをご覧ください。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読み下さい。

詳細は契約者である団体の代表者の方にお渡ししてあります保険約款によりますが、ご不明な点がございましたら取扱代理店・引受保険会社までお問合せください。

平成20年9月作成 募文No 4140-08-032



引受幹事保険会社

東京海上日動火災保険株式会社

お問い合わせ先・取扱代理店: (株)東海日動パートナーズ広島 TEL: 0120-018-217



ニッセイ同和損害保険株式会社



三井住友海上火災保険株式会社